



就職関係図書と語学資格・認定試験問題集の活用について

- 後援会の補助金で購入された資料 -

本学図書館は後援会より毎年100万円の図書購入に対する補助金をいただいています。図書館では、この補助金の意義を尊重して大多数の学生の皆さんが利用されると思われる就職関係資料の購入に充当しております。

就職関係資料といいましても、いくつかの種類があります。たとえば企業の業種、資本金や社員数などを説明した調査用の資料をはじめ、各種公務員、教員、通信・情報サービスなど業種別に分れた採用試験の問題集から、一般教養、面接試験の問題集にいたるまで数多く刊行されています。特に、これらは多くの専門的な出版社が刊行を手がけ、毎年最新のデータに基づいた内容を盛り込んで発行しております。



就職関係図書と語学資格・認定試験問題集の一部

また、本学図書館では就職関係資料と併せて、同じくこの補助金で国連英語検定試験やTOEFLをはじめとする各語学の資格、認定試験問題集を毎年一括して購入し、書店から納入され次第、簡単な手続きを経ていち早く第二閲覧室の就職関係資料コーナーに、前年度の資料と入れ替えて配架しています。従って、毎年最新の資料がこのコーナーに並べられているわけです。

学生の皆さんは、これらの資料を十分に活用され、就職活動や資格・認定試験の場で、ここから得られた知識を活かしていただければ、後援会からのお志にそえるものと思います。

司書雑感

図書館員の成績表

大学共同利用機関である国立情報学研究所が学術情報センターから名称を変更して一年が経ちました。情報学の研究機能を高めるために改組して、この名称に変更されたようで、着々と成果を上げていることが刊行物やホームページなどから伺えます。

本学図書館は平成7年に当時の学術情報センターとコンピュータによる接続をして以来、このシステムを利用して書誌データの取り込みや所在情報の確認、さらには文献複写などで多くのメリットを享受してきました。もちろん、この関係が相互協力を前提にしているものであるため、恩恵を受けるだけでなく協力や貢献もしていかなければなりません。

毎年4月には、国立情報学研究所から本学図書館へ、協力を行ってきた状況が記載された幾つかの報告書類が送られてきます。例えば「総合目録データベース登録件数票」には、同研究所に対して図書や学術雑誌の書誌データを何件登録したかが示されているのです。

今年届いた報告書では、本学図書館が所蔵する資料の中で過去6年間に約8万2千件の図書と3千8百件にわたる雑誌の所蔵レコードを国立情報学研究所の総合目録データベースに登録してきたことがわかります。また、全国の研究機関のデータベースに登録した「学術情報データベース実態調査報告書」には、同規模大学図書館を凌ぐ8タイトルの自館作成データベースが記載されています。

私たち図書館員は、これらの報告書の数値を過去数年のものと見比べながら伸び率を確認します。まるで、学生の皆さんが成績表を見ているかのような気持ちで、毎年の実績を確かめています。本学図書館の利用者のため作っている機能が、国立情報学研究所の様々なシステムを通して全国の大学図書館のサービス向上に役立っている喜びをかみしめながら。

(奥 正敬)